

乙第15号証

>Subject: 引継ぎの資料  
>Resent-Date: Tue, 02 Apr 2013 01:11:51 +0900 (JST)  
>Resent-From: <takahara@osaka-ue.ac.jp>  
>Date: Tue, 02 Apr 2013 01:11:48 +0900  
>From: yappleyy@yahoo.co.jp <yappleyy@yahoo.co.jp>  
>To: 高原 龍二 (takahara) <takahara@osaka-ue.ac.jp>

>高原先生

>この度は、私の退職に伴うゼミをご担当いただくことになり、お礼方々、引継ぎ書類を作成いたしました。

>演習Ⅲの10月以降、就職活動の関係で卒業研究をどのように取り組んでいるか、テーマは何か、何を修得したのか、といった内容のことをゼミ生諸君から聞くこととなり、退職する私ができることは、すばやくこれらに対応し、途中の状態でも、次の先生に引き継げるようにと指導してきました。

>卒論テーマは全員共通として、3グループ編成として、参考情報の提供、議論を中心に、彼らに考えさせながら、そのシナリオも参考に提示したり、しました。

>不十分な状態ですが、ゼミ生諸君へのゼミ指導、よろしく申し上げます。

>お願いかたがた

>吉井康雄

☆ 高原 龍二 / Ryoji TAKAHARA  
>K 大阪経済大学 経営学部 講師・学部長補佐  
>K 〒533-8533 大阪市東淀川区大槻2-2-8 (研究室: J724)  
>K TEL: 06-6328-2431 (代表) FAX: 06-6327-1825 (研究室受付)  
>★ Mail: takahara@osaka-ue.ac.jp URL: <http://www.osaka-ue.ac.jp/zemi/takahara/>  
>※ 2013年3月11日・12日の2日間、システム停止によりメールの送受信ができなくなります。

乙第16号証

ゼミの引継ぎの件

http://www.osaka-u.ac.jp/zemi/takahara/

高原龍二先生、今回、定年などに伴い、ゼミの引継ぎをお願いいたします。

過去の演習では、VEの考え方を身につけていただく宿題をさせていただきました。

しかしながら、昨年10月頃、先生もご存知の学部の変遷があり、卒業研究の指導ができなくなりましたが、同じタイミングでゼミ生の就職活動がスタートすることとなり、急遽、ゼミ生諸君に相談しながら、卒業テーマを決め、3月末までに卒論のストーリーを固めさせる努力をさせていただきました。

その背景には、就職活動に、ゼミでの取り組み、卒業研究のテーマ、そこで研鑽したことなどを記載、面接などで必要事項となるためです。

緊急対応として、次のように取り纏んでおります。

★3月末までに、卒論を仕上げよう ⇨ この意図は、卒論の全体イメージを個人個人がしっかり自分の言葉で語るようになるようにというところにあります。

★そのために、次のように進めましたが、高原先生のご指示に示されたがうということになっております。

- ① 同一テーマを、3グループにわかれて、リーダー、サブリーダーとの議論をとおしてまとめ。
- ② テーマ：日本の製造業は再生するか - シャープを事例として -
- ③ 執筆枚数 1200字/ページとして最低28ページ、多くて32ページとしましよ(図表を含む)
- ④ 参考とした資料は、各章ごとに掲載しましよ。表記方法は大学が皆さんに提供している論文執筆の手引きを参考にしてください。
- ⑤ 図表は、表は、表の上に通し番号で表ナンバーをつけ、表のタイトルを明記し、表の右下に出典を明記すること。
- ⑥ 図表は、図は、図の下に通し番号で表ナンバーをつけ、図のタイトルを明記すること。なお、図の右下に出典を明記すること。

◆グループ構成：グループで、同一テーマを共同執筆する。ただし、全株を各自が議論する。ただし、理解しながら、担当分野を執筆することとしました。

	A2	A3	A4
リーダー			
サブリーダー			
メンバー			

2012年度：2013年度は1名、留学留学します。

## 乙第17号証

池島カリキュラム委員長どの

あなた方執行部および北村カリキュラム委員は、北村さんが作った巧妙な制度の隙間をつかって特任を拒否し、教授会で議論することなく、学部長の一存で決めるということをし、学生の立場は全く考慮されていない進め方をしている訳ですから、講義の初めにゼミ生に説明にきてください。

来週3年生のゼミがあります。再来週には2年生のゼミがあります。

同様に、私の担当科目は学部にとって不要であると説明され、来年は不開講と明言されていますので、来週の情報NW論Ⅱ、再来週の情報VEにも講義の初めに不要という根拠を説明に来てください。

お待ちしております。

これは、あなたがた執行部としての学生へのけじめと思います。

よろしく願います。

吉井康雄

--- On Sun, 2012/11/18, 池島 真策(ikoshima) <[ikoshima@osaka-ue.ac.jp](mailto:ikoshima@osaka-ue.ac.jp)> wrote:

吉井先生(cc:井形先生、吉野先生)

いつもお世話になっております。

ところで、次年度以降のゼミ((現在の)2年生・3年生)について、メールをさせていただきます。もし非常勤としてご担当いただく場合には、非常勤講師用(KVCにあります)の履歴書・業績書を提出いただく必要があります。

執行部(・カリキュラム委員長)としましては、22日(木)の連絡協議会に間に合わせたいと考えております。まずは、吉井先生の御意思をお聞かせいただけないでしょうか。

なお、お忙しいなか大変急で申し訳ありませんが、

履歴書・業績書は21日(水)までに池島のメールポストに投函していただけたら、事務所の方に提出させていただきます。ご検討のほど宜しくお願い申し上げます。

—————★° \*。+° ★° \*。+° ★° \*。+° ★° \*。+° ★—————

☆☆ 大阪経済大学・経営学部ビジネス法学科 ☆ 池島 真策

★ [ikoshima@osaka-ue.ac.jp](mailto:ikoshima@osaka-ue.ac.jp) <<mailto:ikoshima@osaka-ue.ac.jp>>

—————>★° \*。+° ★° \*。+° ★° \*。+° ★° \*。+° ★—————★—————

2012/11/28 (水) 17:24

井形学部長および執行部の先生方へ

今回の特任の進め方はその原因とするところも不適切であり、私に続く先生方のためにも、目下、人権委員会に訴えているところです。

その結果を私は待ちたいと思います。

なお、ゼミ生諸君はどうしたら私の特任が認められるのか、自分たちのゼミも継続して指導していただけるのか、と言っています。署名活動をしようかとも言っています。非常勤でゼミ継続の道もありますが、今回のように不必要と言われた状態でゼミに来る教員はいないと思うと私は学生には説明しています。

学生の立場にたち、適切な制度の運用を期待したいものです。

この件については、以上が私の回答です。

齊井康雄

## 乙第18号証

井形学部長どの

先日はご説明、ありがとうございました。

当日のご説明に、あまりにも間違いが多く、これでこのような決定をなされることは不当と思われま

す。ご訂正をお願いします。

吉井康雄

--- On Tue, 2012/10/16, 井形 浩治(igata) <igata@osaka-ue.ac.jp> wrote:

吉井康雄先生へ (cc. 学部執行部)

昨日夜はお時間頂戴し、誠に申し訳ございませんでした。

さて、本日 10月16日(火)の13:15より、学長徳永光俊先生(同席席者:草薙信照副学長)と同学長室におきまして、先生の「特任教員A」に関する任用手続きについて、これまでの状況説明を致しました。

その上で、私は『大阪経済大学第3編「総務・人事」の第3章「人事」における特任教員規程』の第9条「特任教員Aの任用手続き」の「③学部長は教務委員長および対象者との協議の上、授業計画書を推薦委員会に提出する」という任用手続きにおいて、吉井先生の授業計画書の提出において「不備」(ここでは経営学部カリキュラム検討委員会による否認の意)があるものの、「推薦委員会」そのものへの提案は可能かと伺ってみました。それに対して、徳永学長は過去の事例においても、「推薦委員会」が審議上の「不備」がある候補者の受理はしておらず、当然、同委員会の開催も不可能である、という旨の回答が出されました。

以上のことから、今後、同事案につきましても、事実上進めていくことは不可能となりました。

本学部は、再雇用する教員のみならず、私を含めた全教員(非常勤・客員、その他も含め)の講義担当は、カリキュラム検討委員会の審議を経て、教授会にて承認されております。今回の場合だけ特別に、カリキュラム検討委員会の審議結果を無視し、「吉井先生と私との協議」だけで任用等の手続きが進めることは不可能と考えられます。

昨日、吉井先生は、それでもこのままの書類を持って、「推薦委員会」を開催せよ、と私に強く要望されていましたが、「(講義担当計画としては)不備書類」を持って、井形個人は推薦そのものに合意できないまま、「推薦委員会」に提出し諮ることは、大学としても認められない、という結論でございます。

先生のご要望に添えず、大変心苦しく感じる次第です。加えて、先生からの次の<お願い事項>ですが、

.....

◆カリキュラム委員会として、判断された、沢山の理由・根拠を文書でくださいませんか。

口頭でご説明になるにはあまりにも多岐にわたり、それぞれの理由・根拠の重要性が私には判断できず、10数年、大阪経済大学の一教員として頑張ってきた私への配慮だにご理解していただき、文書でお送りくださいますようお願いいたします。それは、私の一身上にかかわることであり、お示しになった理由・根拠が、「はい、そうですか。それでは辞退します」と了解しうる性格のものかを判断するためです。

.....

大変申し訳ございません。これにつきましても、「特任教員としての評価」についての論評内容でもあり、「公的文書」としての性格も弱く、対象となられた特任教員「候補者」に文書として直接送すには、その確たる根拠づけと「カリキュラム検討委員会全員」からの了解が必要かと存じます。また、捉えようによっては、賞否・主張内容によって発信した個人が特定され、後で発言による非難を受けることになると、同委員会メンバーによる自由かつ忌憚なき発言が今後妨げられてしまうことにもなりかねません。

もしそうであるなら、吉井先生が普段から高説いただいている「大学の民主・公正・公正的な組織体制の理念」とも相反することにも成かねないのではないのでしょうか。この点からも、先生からの要請につきましても、慎重に回答・対応したいと考えますので、お待ち願います。

また、昨日のお話しさせて頂いた内容について、若干、私の見解は違うのですが、これらについてはいずれにせよ今回の結果を覆すものでもないことから、これ以上、先生と「やり取りした内容」を正確に詰める必要性は無いと思われまますので、反論は控えさせていただきます。

「経営管理の3大手法」のご説明・ご教授ありがとうございます。今後、私自身の研究の糧とさせていただきます。最後に重ねて申しますが、先生のご要望に添えず、大変心苦しく感じます。長年、本学部におきまして、ご活躍ありがとうございました。また、個人的にも多くのことをお教え頂き、深く感謝申し上げます。  
井形清治

乙第19号証

差出人: yappieyy@yahoo.co.jp [yappieyy@yahoo.co.jp]

送信日時: 2012年10月21日 18:12

宛先: 吉井 康雄(yasuoyoshii); 井形 浩治(igata)

CC: 池島 真策(ikeshima); 吉野 忠男(tyoshino)

件名: Re: 「推薦委員会」開催不許可のお知らせ

井形学部長殿

いつもお世話になっております。

6つの項目とその述べられた理由が、一方的な解釈とご説明ではなかったか、と判断しております。それらが第3者からみて適正とみなされるだろうか、と危惧しております。私には現在もなお、どうい適切なご説明ではなかったとみております。

なお、お返事いただいたこのメールの内容は精簡するようにします。

吉井康雄

--- On Sun, 2012/10/21, 井形 浩治(igata) <igata@osaka-ue.ac.jp> wrote:

吉井先生へ

申し訳ございません、先生からいただいた本メールの質問内容が分かりかねます。先日の教授会において、過日の吉井先生と私のやり取り(於: 吉井研究室)について、複数名の先生からその内容について問われる質問がございました。私は、吉井先生のみに申し上げましたので、それらの内容は吉井先生から他の先生に伝えられたものと察しますが、そのような理解でよろしいでしょうか。

それは、さておき、私の当日の「説明にあまりにも間違いが多く」とは、何を捉えられていらっしゃるのでしょうか。過日、先生の研究室において時間をかけ同一内容を複数回、念入りに申し上げたつもりです。その時点でおっしゃっていただいた方が、説明した私も、異議・反論を出される吉井先生も両者とも正確にその論点を明らかにできたと考えます。また、先の教授会においてもなぜおっしゃられなかったのでしょうか。

このようなメールを、私と我々執行部にだけ出されるのは、我々以外の先生に聞かれては何か吉井先生や先生に近い方々にとって問題でもあるのでしょうか。私の「説明の(あまりもの)間違い」点は、恐らく1・2点でなく、「多く」と理解されます。なおさら、「公的な場=教授会」にてご指摘いただくべきでしょう。

「このような決定は不当」の意味も理解しかねます。

①「規定によって下される決定そのものが不当」なのでしょうか。それならば、「規定改正」の提議を速やかに出されないと、本年度中には改正が実現することが困難と思われます。もっとも、私は現在のところ「規定によって下される決定そのものが不当」には、了解できません。

②「決定に至るまでの私の運営・判断が不当」なのでしょうか。それならば前の 16 日に先生に出した私の文書を再度、一読願います。やはり、「決定に至るまでの私の運営・判断が不当」とは考えられません。

よって、上記の点からも、何を「訂正」すべきか、理解できません。

それと、教授会において私の思考が「ブア」と吉井先生から発言もございました。ここでの「ブア」は、イコール「ばか・思考が貧しい」と理解してよろしいでしょうか。今回のメールも、「ブア」な弁形に対して、当然「リッチ」な吉井先生の観点・思考は正当正論であるとの前提で送られたものと理解します。

教授会は、本来は「学問研究の場としての自由な発言」が保たれるべきでしょうし、私の後任の学部長・執行部にも、それを是非とも踏襲いただきたいと願います。

しかし、職位・年齢が下の教員に対してのみならず、全ての教員が相互に「尊重・敬服」の精神と態度は、やはり常識として求められます。学外者はともかく、少なくとも、学生・OBは、「そのような教授会」であって欲しいと願っているようにも、私には感じます。

「ばかと云われて」名誉棄損の訴訟提起は、私はいたしません。が、やや、今回のようなメール送付は大変我々を苦しめます。

我々執行部には、先生以外からの学部内外の教員・職員、大学関連の外部者から毎日、多くのメールを頂戴します。それらに対して多くの時間を費やし、可能な限り、失礼が無いように返信いたします。ただし、その作業は大変ストレスを強く感じる業務です。

何卒ご理解下さいませ。

井形浩治

乙第20号証

大阪経済大学経営学部教授会議事録 (12-12)

I. 日時	2012年11月16日(金) 19:35~15:35
II. 場所	E館第1・2会議室
III. 出席者	経営学部長他 計43名

出欠表

○	井形 浩治	○	東 裕一	○	栗田 聡子
○	池島 真策	○	池野 重男	○	曾根 秀一
×	伊藤 裕人	○	伊藤 正之	○	高原 龍二
○	江島 由裕	○	黒田 尚樹	○	張 又心 Barbara
○	太田 一樹	○	田中 健吾	○	橋谷 聡一
○	北村 賢	○	田村 俊之	○	福田 圭三
○	木村 俊郎	○	遠原 智文	○	松田 温郎
○	栗城 利明	○	林 幸一	○	横内 憲
○	後藤 一郎	○	林田 修	○	四條 北斗
×	鈴木 滋	○	藤澤 宏樹		
○	二宮 正司	○	藤嶋 肇		
○	樋口 克次	○	堀竹 学		
○	本田 良巳	○	本間 利通		
○	六浦 英文	○	眞島 宏明		
○	森 一志	○	増村 紀子		
○	吉井 康雄	○	増山 裕一		
○	渡辺 大介	○	三島 重顕		
		○	山田 文明		
		○	吉野 忠男		

【教授】17名 【准教授】20名 【講師】8名  
 【合計】45名 【定足数】20名  
 ○=出席、△=遅刻(10分以上)、▲=遅刻(30分以上)、▽中途退出  
 出欠確認：池島副学部長

IV. 議題

1. 入試合否判定に関する件
  2. 教務に関する件
  3. 入試に関する件
  4. 学生部に関する件
  5. 進路支援に関する件
  6. 人事に関する件
  7. 次期学部長選出について
  8. カリキュラムについて
- その他

[Redacted text block]

[Redacted text block]

6. [Redacted]

(1) [Redacted]

[Redacted text block]

(2) 特任教員について《井形学部長》

標記について、次年度からの特任教員への申し出が不受理となったとの報告があった。

◇ 本日の吉井氏配布文書の私関係部分に異議がある。そこに貼り付けられた2003年2から3月の2通のメールは、2部改革を経て授業開始目前の緊急の時期のやり取りとしては間隔が空きすぎていてそれ自体奇妙だ。都合の悪い部分が隠されている。科目名変更になんともせず科目担当を自らも辞めるとされたのだ。さらに2部科目を本人が辞退したかどうかよりも教授会の決定が重要だが、加えて2003年6月の教授会では次年度以降2部担当をしないと宣言され職事録にもその発言が採録されている。にもかかわらず、このような文書なりメールを繰り返し配布送信することの意味は重大だ。

◇ 情報を共有した上で、判断してほしい。

◇ 不受理と判断したのはだれか。

◆ 学長である。

◇ 理由はどのようなことか。

◆ 特任として科目を担当いただくことを承諾できないからである。

◇ 再雇用に関することなので、本人のいないところでやるべきではないか。

◇ 再雇用に関しての規程を知らない。どういう手順でやるのか教えてほしい。

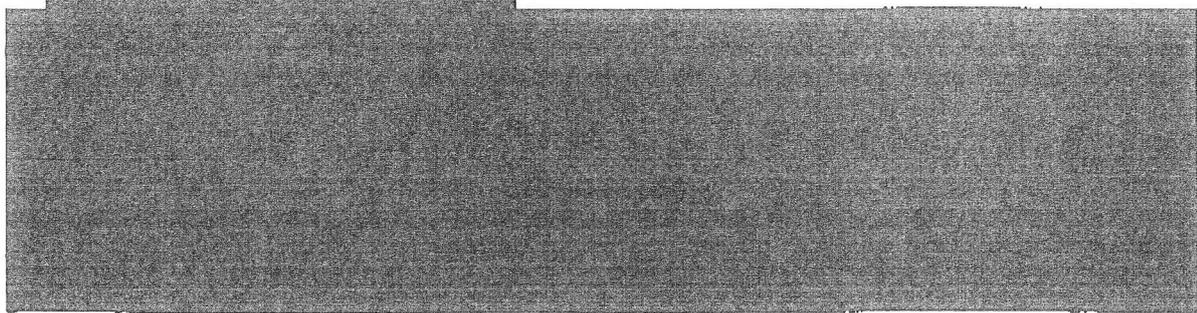
◇ 1年前ぐらいには再雇用されるかどうかわかるようにしてほしい。ゼミの担当の問題や今後の見通しのためにも早く知りたい。

◇ 今後は教授会を離れて、組合などに持っていく。

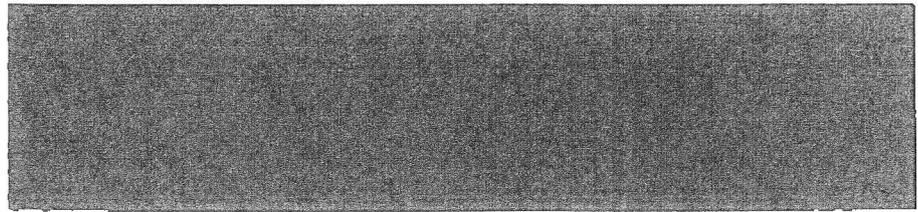
◇ 学部長から書類上の不備を理由に不受理としたとのことだったが、書類上の不備とはどのようなものか。

◆ 学部長が判断して作成する書類が作成できなかった。その理由は次年度担当科目を決定できなかったからである。

7. 



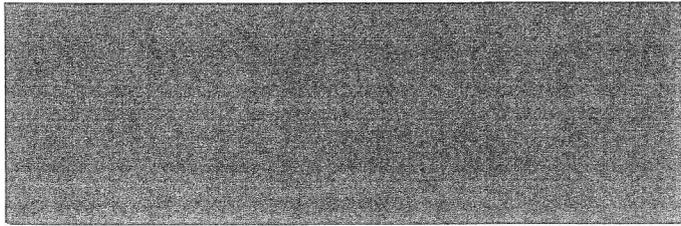
8. 



9. 



(7)



12月 9日	確認
井手浩石	印

乙第21号証

大阪経済大学経営学部教授会議事録 (04-04)

I. 日 時  
II. 場 所  
III. 出席者

2004年5月21日(金) 13:35 ~ 16:50

本館第2会議室

経営学部長他 計24名

出 欠 表

<input type="radio"/>	青水 司	<input type="radio"/>	池野 龍男	留	伊藤 正之
<input type="radio"/>	伊藤 裕人	<input type="radio"/>	今西 宏次	<input type="radio"/>	関口 倫紀
<input type="radio"/>	太田 一樹	<input type="radio"/>	林田 修	<input type="radio"/>	津田 博之
<input type="radio"/>	北村 實	<input type="radio"/>	樋口 克次	<input type="radio"/>	朴 泰 勲
<input type="radio"/>	木村 俊郎	<input type="radio"/>	藤岡 里圭	<input type="radio"/>	藤嶋 雅
<input type="radio"/>	後藤 一郎	<input type="radio"/>	山田 文明	<input type="radio"/>	増村 紀子
<input type="radio"/>	鈴木 滋			<input type="radio"/>	吉垣 爽
<input type="radio"/>	二宮 正司				
<input type="radio"/>	藤本 清一				
<input type="radio"/>	本田 良巳				
<input type="radio"/>	吉井 康雄				
<input type="radio"/>	渡辺 大介				

【教授】12名 【助教授】6名 【講師】7名

【合計】25名 (留学者1名) 【定足数】13名

V. 議 題

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

教務に関する件

入試に関する件

学生部に関する件

人事に関する件

経営情報学部新学科に関する件

大学院設置について【経営】

カリキュラムについて

学部長の選出について【人間】

各種委員の選出について

その他

(7) [Redacted]

[Redacted]

(8) [Redacted]

(9) [Redacted]

(10) [Redacted]

(11) [Redacted]

(12) [Redacted]

(14) [Redacted]

① [Redacted]

② [Redacted]

③ [Redacted]

④その他、吉井教授から提案されていた議事録問題について、次の3点を再確認した。①議事録は2ヶ月以内に訂正協議を可能とする。②録音希望者は、出席者の了解を得て行う。③6月6日議事録の訂正希望文を本日の議事録に収録する。【下記】

6月6日の教授会議事録「③ベンチャービジネス論・市場戦略論」について、吉井康雄氏より、下記のように修正すべきだとの意見があった。

\*\*\*\*\*議事録に対する代替案\*\*\*\*\*

③【ベンチャービジネス論】担当者の採用について《二宮審査委員長》

6月4日の研究報告会の後、審査委員会で検討した結果、太田一樹氏をベンチャービジネス論等

担当者に推薦したいとして、二宮庄司、林田修、樋口克次、各審査委員を代表し二宮審査委員長から主要な審査論文について講評があり、専任教員として適格であると判断した旨報告された。これに対して次の意見が交換された。

(吉井)「二宮先生のレフェリーは、ベンチャービジネス論ではなくマーケティングの先生としてのレフェリーです。ベンチャービジネス論の業績が全くないではないですか。採用の判断基準を示してください。」

(執行部他) 大学院設立における申請条件はベンチャービジネス論ではなく、その方がパスできるように適宜変更すればよい。

(二宮) ベンチャービジネス論は全く新しい分野でどこの大学も不明確なまま進めているのが現状です。吉井先生はそれではどんな基準をおもちですか。

このような議論の後、在籍者 16 名による投票が行われ、15 名「可」、1 名「否」の投票結果により、ベンチャービジネス論の担当として採用することが決定した。この採決に対して次の要望がなされている。

(吉井)「ベンチャービジネス論として採用されたならば、マーケティング論ではなくベンチャービジネス論の教員としてのその責任を果たすようにもっていただきたい。」

結果として、太田一樹氏の就任予定日は 2004 年 4 月 1 日付けであること、出席している教授の承認のもとで教授として迎えることが決定した。

\*\*\*\*\*

以上

6月4日確認
北村 哲